参加者の声

小中学生



今まで、インターネットのことでたくさん事件が起きているから、インターネットは危ないものだということは知っていましたが、そのこわさ、今後どのようにスマホ（インターネット）とつきあっていけばいいのかについてくわしく知ることができました。



スマホは使い慣れていくほど恐ろしいと分かりました。スマホにあやつられないように気をつけたいと思います。



包丁とスマホのあぶなさの違いが分かり、これから自分で気をつけていくことが見つかりました。ネットを使うときのきまりをつくり、親子で依存や犯罪など防いでいけるようにしたいです。

保護者

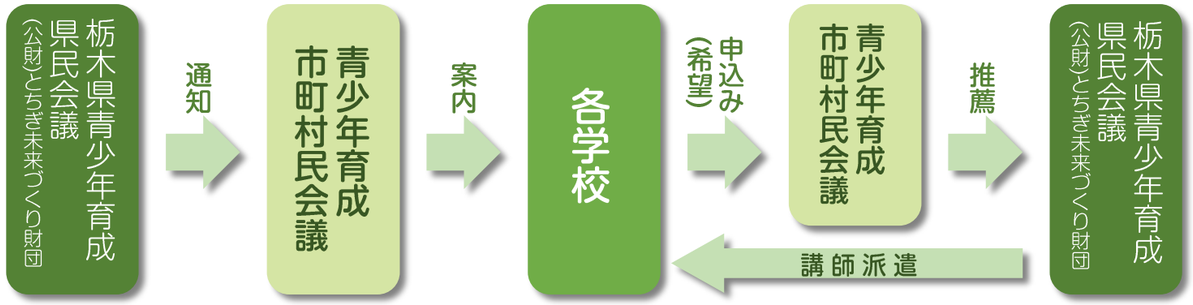


日頃、便利に使っているインターネットに振り回されているのは大人なのかもしれないと感じ、怖くなりました。考えながら使っていきたいです。



子どもたちにも分かりやすい説明でした。知らず知らずのうちに魔法にかかってしまっていることに気付かされました。

お申し込みの流れ



とちぎネット利用アドバイザーとは？

令和元年度に開催された栃木県青少年育成県民会議主催「親子学び合い事業講師養成講座」（ロジカルキット社指導）に参加し、所定のプログラムを修了され、かつ県民会議理事長より正式に本事業の講師として認定された方々です。

子ども達に価値あるネットとの向き合い方、自分を成長させるネット利用について新たな気づきを与える存在として、本事業の講師を務めます。

お問い合わせ

栃木県青少年育成県民会議事務局
（公益財団法人とちぎ未来づくり財団 青少年育成課）
〒320-8530
栃木県宇都宮市本町１番８号
（栃木県総合文化センター内）
TEL：028-643-1005
FAX：028-650-5284
E-MAIL：ikusei@tmf.or.jp
URL: http://www.tmf.or.jp

LogicalKit ロジカルキット
栃木県青少年育成県民会議

栃木県青少年育成県民会議主催

親子学び合い事業 ネット時代の歩き方講習会

受講対象者

小中学校・義務教育学校

児童生徒及び保護者･地域関係者

講師　合同会社ロジカルキット
とちぎネット利用アドバイザー※

※ 詳しくは裏面をご覧ください

ねらい

インターネットとは何でしょうか？ 私たちはなぜインターネットを使うのでしょうか？ それは、自分の考えを深め、変化する現代社会を自分の力でたくましく生きるためです。「便利だから…」や「危険だから…」とあいまいな動揺を繰り返すことではなく、自分に問いかけることを通して自分の力を身につけていくことが大切です。

講習会では、インターネット利用の課題と子ども達の目指すべき将来像を示し、参加する親子がそれぞれの立場からインターネットについて考えるきっかけを作ります。そして、子どもの人としての成長のために、今必要な学習や体験は何かを参加者全員に問いかけます。



POINT 1

疑問を持ち 問題の仕組みを 知ること

知らない人を簡単に信用できてしまうことや、オンラインゲームの高額課金など、ネット利用に起因する問題は、非常識なものばかりです。なぜこのようなことが起こってしまうのでしょうか？ 問題のカラクリに迫ります。



POINT 2

主体的に使う為に 目的意識を 持つこと

スマホを使う目的は何でしょう。自分の生活に役立て、より良い生活を送ることがスマホを使う目的ではないでしょうか。悪いことを指摘するだけでなく、より良いものを目指す目的意識を高めることが、子ども達の成長を促します。







ネット時代の歩き方の基本

スマホに潜む 魔法の力

スマホやネットの危険性を包丁に例えることがありますが、両者は危険性の「質」が異なります。包丁など加工の為に使う道具の危険には、痛い思いをする嫌なイメージがあります。対してスマホやネットの危険とは、まるで魔法にかけられたように、好んで自ら誤った判断をしてしまう点にあり、本人が間違いに気付けないことが特徴です。

包丁とスマホの危険性の違い

包丁などの一般の道具は怪我や事故など危険が想像しやすく、注意しながら安全な使い方を体で覚えます。対してスマホは思考や精神に直接働きかける力があり、包丁のように経験に頼って体で覚えるものではありません。

包丁の注意点が力加減や身体への危害に対して、スマホの注意点は思考の変化や誘惑など頭（判断）の問題なのです。



身体・物理的問題

- 怪我をする
- 怖いイメージがある
- 正しい扱い方を示すことができる

手元に注意しながら扱い方を練習して、取り扱いのルールを守る。



思考・精神的問題

- 判断を誤る
- 怖いイメージがない
- 正しい扱い方を示すことができない

発信者の意図を読み、情報に流されない賢さを身につける。

欲求を引き出す「操り魔法」の危険

スマホの危険性は、精神や判断に作用することです。それはまるで魔法のように私たちを誘惑し、思考を狂わせ、誤った判断をさせようと働きかけているようにも見えます。スマホやネットで起こる問題の多くは、使っている本人だけの問題ではありません。そのような気持ちにさせる不思議な力が働いていると考えながら、利用者（子ども）目線で問題を考える必要があります。



子どものスマホ 四大リスク

インターネットに起因する問題の多くは、利用者の目的意識が原因です。私たちは欲求を叶えるためにスマホを使いますが、その欲求が自分勝手なものや、刹那的なものであれば、その結果はおのずと悪い方向へ向かいます。多種多様なコミュニケーションが行き交うインターネットでは、子ども達の精神的な幼さがリスクを高めているのです。



中毒性

スマホは動画やゲームを際限なく提供してくれる誘惑の道具でもあります。つまらない日常から刺激的な仮想世界へいつでも遊びに行けることで、相対的に日常が面白くなくなる怖さが潜んでいます。



関係性

人間関係に敏感な思春期の子ども達は、ネットでつながりを求めながらも、相手の本心が読めず疑心暗鬼に囚われやすい状態にあり、些細なことで関係が悪化しやすくなります。



有害性

家出や自殺に興味があれば、簡単にその情報や人とつながります。思春期の難しい心の葛藤に苦しむ子ども達の中には、外の世界に居場所を求めようとして犯罪に巻き込まれることもあります。



社会性

便利なものに頼ることで、自分を磨く必要性が相対的に減りやすくなっています。面倒なことを避け、安易な手段にすがる目的でスマホを使うことは、子ども達の将来に影を落とす危険があります。

親子学び合い講座の講師（下田氏）が主催する団体のウェブページ等で詳しい情報を発信しています。

特定非営利活動法人 青少年メディア研究協会 Association of youth Media Study

YouTube

Home Page

LogicalKit ロジカルキット

Home Page

ネット時代を歩く 3つの視点

スマホを通じてネット社会に参画することは、より高度なコミュニケーションに対応できる知識や能力が不可欠になります。そのためには、段階的にスマホを扱うための安全対策だけでなく、情報を読み解き活用できる思考力や、主体的に人と関われる社会的スキルなど、広く日常生活の中で学ぶ機会を持つことが重要です。

ネット上の安全を考える



様々な人や情報とつながりあうインターネットは、大都市に例えて考えることができます。子ども達がネット上で関わる情報や人物は、人間社会そのものです。安全に街を歩くのと同じように、ネット上の安全を確保して子ども達がネットを通じて社会を学べる環境を整えます。

- フィルタリングや制限設定をしよう
- 身の安全を守るルールを決めよう
- 周囲に配慮した使用を心がけよう

疑問を持ち考える



様々な立場や考えや目的を持つ人達が集う世の中には「正しいこと」が無数にあります。ネットは世の中を映しだす鏡のようなものです。多くの情報の中から判断する時、論理的思考や疑問を持つ姿勢、常識を疑う力など「考える力」が必要です。

- 物事に疑問を持つようにしよう
- 原理や仕組みを考えよう
- 好奇心を絶やさず世の中に関心を持とう

人間社会を知る



スマホを使う理由は他者や社会と関わることです。どの様に他者や社会と関わりたいか、自分は何をしたいのかなどを考えられる社会的な力（生きる力）がスマホを使う原動力なのです。スマホを使うには、人を知り社会を知り自分を知る体験機会が重要なのです。

- 自分らしさを確立しよう
- 思いやりや許す心を持とう
- 人間らしさとは何か考え続けよう